

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

教育開発センター教育企画室

(責任者名) 筒井 琢磨

(役職名) 教育企画室長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	教育開発センター教育企画室の令和6年度数理・データサイエンス・AI教育プログラム自己点検・評価会議(令和7年3月25日開催)(以下、自己点検・評価会議)において、本プログラムの学科別の履修・修得状況の分析を実施し、改善点等を検討した。全学部共通科目として「統計学基礎」「データサイエンス入門」(令和4年度以前入学生対象)、「データサイエンス入門」(令和5年度以降入学生対象)を開講した。 統計学基礎 受講者数76名 単位修得者数65名(単位修得率86%) データサイエンス入門 受講者数629名 単位修得者数556名(単位修得率88%) ・必修科目であるデータサイエンス入門の単位修得率が9割弱にとどまったのは放棄者が多いためである。LMS(manaba)で掲示する履修上の注意(「講義動画を100%視聴のうえ、確認テストを受験すること」)を読まずに欠席扱いになった者が多いと考えられる。
学修成果	自己点検・評価会議において、成績分布状況の分析を実施した。「秀」「優」の全受講者に占める割合がかなり高い数値を示していることから、十分な学修成果をあげていることを確認した。また、毎回の授業で学生に50字以上の授業に関するコメントの提出を課していて、全担当教員でコメントをチェックしている。ほとんどの学生は100字以上の文章を提出しているため、毎回の学修成果があがっていることを確認できている。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	授業最終回に全履修者対象の学修成果評価アンケートを実施し、自己点検・評価会議で理解度の分析を行った。学生の内容の理解度については設問1(この授業の内容が理解できたと思いますか)で「十分理解できた」「ある程度理解できた」を合わせた割合が96%(「データサイエンス入門」「統計学基礎」を合わせた集計)を超えているので、学生の内容の理解度はかなり高いと判断できる。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	授業最終回に全履修者対象の学修成果評価アンケートを実施し、自己点検・評価会議で他の学生への推奨度の分析を行った。他の学生への推奨度については設問4(この授業の受講を後輩等他の学生に勧めたいですか)で「勧めたい」「どちらかといえば勧めたい」を合わせた割合が97%以上を占めているため、他の学生への推奨度はかなり高いと評価することができる。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	令和5年度から「データサイエンス入門」を全学部共通科目必修として開講している。
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	修了者のみを対象とした調査は難しいため、必修化した学年が卒業する令和8年度以降に、就職先企業等に対するアンケート調査(卒業生が就職して3年目の企業・団体を対象。就職担当・教育開発センターが実施主体、令和2、4、5、6年度実施)で本教育プログラムに関する項目を追加できるように検討する。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	皇學館大学外部評価委員会(令和7年2月3日開催)で、外部評価委員から質問4件を含む本教育プログラムに関する意見を12件いただき、質問4件には当日または後日にすべて回答した。いただいた意見については教育開発センター教育企画室会議で共有し、本プログラムを改善していく際の参考としている。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	毎回の授業で提出させているコメントに対して担当教員が分担してリプライしている。自学部学生へのリプライで自学部の専門性との関わりを示したり、最近話題になったニュース等を紹介して、数理・データサイエンス・AIを学ぶことの楽しさや意義を伝える努力をしている。 自己点検・評価会議で学修成果評価アンケートの分析を行った。設問2(この授業を通じて、データサイエンス・AIを学ぶ意義を理解できたと思いますか)で「十分理解できた」「ある程度理解できた」を合わせた割合が97%以上だった。また、設問3(この授業を通じて、データサイエンス・AIを学ぶ楽しさを感じましたか)で「十分感じた」「ある程度感じた」を合わせた割合が93%以上だったので数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を十分理解していると評価できる。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	「データサイエンス入門」「統計学基礎」では、毎回の講義動画視聴後にコメントを記入させていて、質問や理解が不十分に見えるコメントをピックアップして担当教員が振り返り動画を作成し、質問への回答や補足説明を行って、より「わかりやすい」授業にすることに努めている。 自己点検・評価会議で学修成果評価アンケート結果の分析を行った。設問5(この授業を通して学びデータサイエンス・AIに関して身に付けられたこと、身に付けられなかったこと等、振り返りをして下さい)で自由記述回答では、とくにわかりづらかった、と回答している学生はいなかった。ただし、Excel作業に不慣れな学生が講義動画だけではうまく進められなかったと回答しているので、Excel作業については講義動画以外に操作方法等の情報を提供する必要がある。 講義動画作成者担当者には、生成AI等最新技術情報を導入した動画を毎年度作成していただけることを確認していて、実際に毎年度新たなコースを追加していただいている。 教育開発センター教育企画室にて学修成果評価アンケートや外部評価委員からの意見を参考にして、本プログラムが学生にとって「分かりやすい」授業とすることを継続して検討していく予定である。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制（委員会・組織等）

教育開発センター教育企画室		
（責任者名）	筒井 琢磨	（役職名）
		教育企画室長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	令和6年4月に初めての「データサイエンス副専攻」申請期間を設定し、本年度申請した学生は27名である。全学部共通科目として「データサイエンス入門」「数学基礎」「プログラミング・アルゴリズム基礎」を開講した。 データサイエンス入門 受講者数629名 単位修得者数556名（単位修得率88%） 数学基礎 受講者数20名 単位修得者数19名（単位修得率95%） プログラミング・アルゴリズム基礎 受講者数24名 単位修得者数21名（単位修得率88%） 本プログラムを構成する文学部専門科目として「情報数学」「アルゴリズムとデータ構造演習」「データ加工」「データ収集」、教育学部専門科目として「代数学基礎」「代数学序論」、現代日本社会学部専門科目として「社会情報学」「社会調査法」「社会情報分析」を開講した。 情報数学 受講者数11名 単位修得者数11名(単位修得率100%) アルゴリズムとデータ構造演習 受講者数6名 単位修得者数6名(単位修得率100%) データ加工 受講者数3名 単位修得者数3名(単位修得率100%) データ収集 受講者数3名 単位修得者数3名(単位修得率100%) 代数学基礎 受講者数27名 単位修得者数27名(単位修得率100%) 代数学序論 受講者数29名 単位修得者数29名(単位修得率100%) 社会情報学 受講者数103名 単位修得者数90名(単位修得率87%) 社会調査法 受講者数54名 単位修得者数50名(単位修得率93%) 社会情報分析 受講者数29名 単位修得者数25名(単位修得率86%) 令和7年度に残りの8科目を開講する。
学修成果	教育開発センター教育企画室の令和6年度数理・データサイエンス・AI教育プログラム自己点検・評価会議（令和7年3月25日開催）（以下、自己点検・評価会議）において、全学部共通科目必修「データサイエンス入門」成績分布状況の分析を実施した。「秀」「優」の全受講者に占める割合がかなり高い数値を示していることから、十分な学修成果をあげていることを確認した。 「データサイエンス入門」では毎回の授業で学生に50字以上の授業に関するコメントの提出を課していて、全担当教員でコメントをチェックしている。ほとんどの学生は100字以上の文章を提出しているため、毎回の学修成果があがっていることを確認できている。 今年度開講12科目ののべ受講学生でみると、単位取得者は89.6%、「不可」1.7%、「放棄」8.7%だったので、十分な学修成果をあげていると判断できる。「データサイエンス入門」の「放棄」が11.3%と高いが、この科目はオンデマンド授業で実施しているため、1週間の受講期限を超える学生が多いことが原因であると考えられる。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	授業最終回に全履修者対象の学修成果評価アンケートを実施し、自己点検・評価会議で理解度の分析を行った。 学生の内容の理解度については設問1（この授業の内容が理解できたと思いますか）で「十分理解できた」「ある程度理解できた」を合わせた割合は1科目（受講者数3名で33%）を除いて75%以上あり、学生の理解度は高いと判断できる。
学生アンケート等を通じた後輩等の学生への推奨度	授業最終回に全履修者対象の学修成果評価アンケートを実施し、自己点検・評価会議で他の学生への推奨度の分析を行った。 他の学生への推奨度については設問4（この授業の受講を後輩等他の学生に勧めたいですか）で「勧めたい」「どちらかといえば勧めたい」を合わせた割合はいずれの科目も80%以上あり、他の学生への推奨度はかなり高いと評価することができる。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本プログラムは「データサイエンス副専攻」としても設置しているため、全学の履修・修学指導の時期に他の副専攻と同様に学生への周知している。また、本プログラムの概要をまとめた履修案内を作成し、履修・修学指導時に配付している（紙とWeb）。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	修了者のみを対象とした調査は難しいため、初めて修了者が卒業する令和8年度以降に、就職先企業等に対するアンケート調査（卒業生が就職して3年目の企業・団体を対象。就職担当・教育開発センターが実施主体、令和2、4、5、6年度実施）で本教育プログラムに関する項目を追加できるように検討する。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	皇學館大学外部評価委員会（令和7年2月3日開催）で、外部評価委員から質問4件を含む本教育プログラムに関する意見を12件いただき、質問4件には当日または後日にすべて回答した。いただいた意見については教育開発センター教育企画室会議で共有し、本プログラムを改善していく際の参考としている。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	自己点検・評価会議で学修成果評価アンケートの分析を行った。設問2（この授業を通じて、データサイエンス・AIを学ぶ意義を理解できたと思いますか）で「十分理解できた」「ある程度理解できた」を合わせた割合が79%以上だった。また、設問3（この授業を通じて、データサイエンス・AIを学ぶ楽しさを感じましたか）で「十分感じた」「ある程度感じた」を合わせた割合が85%以上だったので数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を十分理解していると評価できる。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	自己点検・評価会議で学修成果評価アンケート結果を分析し、「分かりやすい」授業となるよう検討している。設問5（この授業を通して学びデータサイエンス・AIに関して身に付けられたこと、身に付けられなかったこと等、振り返りをして下さい）で自由記述回答では、とくにわかりづらかった、と回答している学生はいなかった。 教育開発センター教育企画室にて学修成果評価アンケートや外部評価委員からの意見を参考にして、本プログラムが学生にとって「分かりやすい」授業とすることを継続して検討していく予定である。本プログラム担当教員が「分かりやすい」授業を目指していく意識を共有できるようにする。